



斎藤武雄先生 逝く

弘前大学名誉教授、弘前学院大学元学長斎藤武雄先生には、かねて病氣療養中のところ薬石効無く本年一月二十八日腎不全のため死去された。享年九十一歳。

同先生は弘前大学、弘前学院大学での長きにわたる哲学教授としてのご勤続を通じて、教育面・研究面・管理運営面で多大な貢献をされた。特に一九六五年の本弘前大学哲学会の設立は先生のご尽力無しには考えられなかったであろう。設立以後もつい先年まで会長として我々哲学学徒を導いてくださった。ここに謹んで学恩に感謝申し上げると共に、先生の御霊の安らかならんことをお祈りしたい。

告別式は三月二十日、先生のご郷里秋田県神岡町に程近い大曲市のエンペラルホテルで荘重に執り行われた。本学会からも七名の会員が参列しお別れした。霊前に捧げられたご弔辞を転載し、先生のご功績を偲ぶことにしたい。合掌。

(幹事会)

弔 辞

故 弘前大学名誉教授 斎藤武雄先生の告別式がとり行われるに当たり、謹んで御霊前に哀悼の詞を捧げます。

いま、顧みますと、生涯を哲学の教育と研究に捧げられた先生のお姿が彷彿として浮かんでまいります。

先生は、昭和八年東京文理科大学哲学科を卒業され、その後、北海道、神奈川県、栃木県、青森県の各師範学校に奉職されたのち、昭和二十四年弘前大学教授、同四十三年弘前大学人文文学部長に就任されましたが、同四十四年三月停年により退職され、同年弘前大学名誉教授の称号を授与されました。引き続き、弘前学院大学に移られ、昭和六十二年同大学長・同大学文学部長に就任されましたが、平成元年退職され、弘前学院大学名誉学長・同大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、特に昭和二十四年弘前大学の創設に当たり、創設委員として大学の整備充実に力を注がれ、また文理学部改組に当たっては、人文学部準備委員長として難事業を推進されました。この間、先生は、熱心な研究心と温厚な人柄をもって学生教育指導に専念されました。また、教育の根幹は哲学にありとのお考えから、哲学教育の充実に尽力されました。その御講義は実に情熱的また感動的であつたとの由であります。

先生の哲学への情熱は、終生衰えることがありませんでした。それどころか、晩年になってからも、大部の著書を次々と刊行されました。その数は優に十冊を越え、翻訳や研究論文も多数にのほります。それら研究によって、先生は学界、特にヤスパースを中心とする実存哲学の分野に多大の貢献をされ

ました。加えて先生は、学界の重鎮として、哲学研究の振興にも尽力されました。

先生が、このように、大学卒業以来の六十有余年をひたすら哲学の研究と教育に捧げられたことに對し、一月二十八日從三位の叙位があり、ここにその位記を仰ぎ見ている次第であります。

いま、幽明境いを異にし、その温容に接する術もないことは、私たちにとってこの上もない悲しみであります。しかし、いかんともし難く、いまはただ先生の、哲学一筋にかけた御生涯を偲び、在世中の数々の功績と高い人徳とに對し敬意と感謝の意を表し、御冥福をお祈りして、告別の辞といたします。

平成七年三月二十日

弘前大学人文学部代表 岡崎 英 輔

斎藤武雄先生とのお別れの言葉

孜孜として哲学探求の道を歩み続けられた、斎藤武雄先生の老いる事のない強靱な精神も、本年一月二十八日ついにその活動を静かに停止し、最後の安息に着かれました。先生の広大で深い学恩に浴した一人としてここにそのご遺徳の一端を偲び、永久の別れの言葉と致します。

長い研究教育生活を通じて先生は、学術上では実に多くの著書論文を発表され、教育者としては幾多の人材を送り出され、また評議員及び学部長として大学運営に貢献されました。二年前弘前大学哲

学会会長という重責を先生より受け継ぐ事になった私としては、何よりも先生が弘前といういわば辺境の地にあつて純粹至高の求知心を身を持って示され、私共に哲学者の生きた亀鑑として計り知れない影響を与えてくださった事に深甚の感謝の念を表したいと思います。先生の絶大なお力により昭和四十一年本哲学会は誕生致しました。以来二十八年間の長きにわたつて先生は会長を努められ我々を導いてくれました。またヤスパース協会理事として全国的に活躍されると共に特に東北支部を結成し、最も得意とするヤスパース哲学について毎年講義してくださいました。「十八世紀のカントと本居宣長の二人は共に都から離れた地において大学者となつた」というのは在りし日の先生の言葉であります。先生は地方性故の文化的遅れという図式を峻拒されました。それが單なる願望ややせ我慢ではなく、裏付けとなる類稀な努力と実績が備わつておりました。誠に先生は高い理想を遠望する努力の人であり、求道的な哲学者でありました。哲学こそは人間形成の中核であるとの熱い思い、その哲学の振興と普及にかける情熱はひしひしと感じました。毎年頂く年賀状には前年の研究成果が列挙されていましたが、それは驚嘆に値する量であり、我々への叱咤激励と成りました。先生はまた單に書物だけの学問を空理空論として退け、書状修練と事上鍊磨つまり知識や理論が人間の魂の本質に根ざし、人間の生きる道となるような哲学を求めました。これが恐らくは実存哲学の真髓というのだと思います。

先生の哲学に寄せた熱い思い、不屈の探求心を思うとき、ともすれば怠惰に流れがちな私としてはじくじたる思いを禁じ得ませんが、せめて先生が灯された真摯な哲学探求の火を守り続ける事を誓つてお別れの言葉と致します。謹んで泉下の先生のご冥福をお祈り致します。

平成七年三月二十日

弔 辞

先生、斎藤先生、いよいよお別れでございます。

いろいろとお世話になりました思い出は尽きませんが、去る一月九日福士長三氏と一緒に先生のところにお見舞いに参りましたところ、先生は大好きな大相撲の取組の予想をなさっておりました。押し相撲同士の取組のところでは、かつての哲学のゼミナールの授業でのお姿を彷彿させるような熟考を重ねた後にチェックしていました。

それを拝見しまして、先生はお元気でいらっしやるとの感を抱いて帰宅致しました。

思えば、私達が先生に最初にお目にかかりましたのは青森師範学校に入学した時でした。三学年の時に哲学科が新設となり青森師範学校の女子部長までなされた先生が、学級担任をお引き受け下さいました。私達一同は、先生の教育愛に深く感動し、先生の教えを心して受けたものです。

卒業後教壇に立った私達は色々な困難なことに出会い、途方にくれ立ち止まり窮することもありましたが、先生は私達を見捨てることなく恩愛をもって望みと勇気を与えて下さいました。

私達はその恩に報いるために何回か先生をお迎えしたり会報も発行したりして参りました。平成三年先生が米寿を迎えられましたので、先生のこよなく愛しておられました岩木山の中腹のこざくら荘の温泉地にお迎えして、みんなでお祝いを致しました。この同期会での先生との面会が最後のお別れのこととなりました。

弘前大学時代における先生はドイツの実存哲学者ヤスパース哲学の研究に没頭されておりました。私は昭和二十六年ヤスパースの『哲学的信仰』のゼミナールに参加しました。演習のときの先生は

非常に厳密に資料に当られ厳格な權威にみちた学者の威嚴をもって指導して下さいました。

いまでも印象に深く残っているのは、テキストを読むこともままならない程眼を充血させながら、時折り目薬をさし込みつつゼミナールの講座に精根を傾けておられたことです。

また、ヤスパース哲学の講義では、質疑や対話に応じ、学生をして狭さから広さへの空間へと思考を解放させる訴えの実存的交わりの教育の道を示されました。先生のよく言われる教育上の両極弁証法の方法を身をもって私達に示して下った教育者でした。

先生の真理探究のあくなき姿に接することが出来ましたことは私達の生涯にとって、またとない大きな喜びであると共に幸福でもあります。

私達は先生の教えを肝に銘じまして、これからの人生に生かして参りたいと念願しております。

先生、長い間どうも有り難うございました。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成七年三月二十日

教え子代表 川口光勇